

【図画工作科・小5・「形が動く 絵が動く」】①

育成を目指す資質・能力

<本時のねらい> コマ撮りアニメーションの試しの作品を見合い、意見を交流することを通して、発想を広げ主題に合わせた表現方法を考えることができる。

ICT活用のポイント

視覚的な提示による課題把握や表現方法の比較検討のしやすさ 操作が単純なコマ撮り制作ブラウザアプリの使用による製作時間の短縮・試行錯誤のしやすさ 作品やお互いの意見の共有のしやすさ

【出会う】・アニメーションの仕組みを知り、試しの作品を撮影する。

アニメーションの仕組みを使って見る人の心も動かそう

【試す・広げる】・作品を共有し、意見交流することで、発想を広げ、主題に合った表現方法を試行錯誤しながら見付ける。

【表す】・動きや変化を確かめながら工夫し、より主題に合った表現方法で表す。

【振り返る】・作品を鑑賞し、よさや面白さを伝え合う。

事例の概要

○コマ撮りアニメーションの試しの作品を見合い、様々な表現に触れることで、自他の作品の造形的なよさや表現の意図、表し方の変化などについての考えを深める。

【事例におけるICT活用の場面①】

○コマ撮り制作ブラウザアプリを使った試しの作品をプレゼンテーションソフトに貼り付け、学習支援ソフトで共有を行い、よい点をコメント機能で個別に伝える。

【事例におけるICT活用の場面②】

○学習支援ソフトに提出されたものを電子黒板で拡大提示し、よさや工夫した点をクラス全体で共有する。

○プレゼンテーションソフトに貼り付けた完成作品の下のコメント欄に振り返りを記述し、共有する。

【図画工作科・小5・「形が動く 絵が動く」】②

【事例におけるICT活用の場面①】

〇〇さんの方法と〇〇さんの方法を組み合わせると、私の表したい表現になりそう。(※2)



(※1)

この作品の動きが面白いのは、コマ数を増やして撮影することで動きがスムーズに見えて、生きているように見えるから。(※3)

コマ撮り制作ブラウザアプリ(※1)を使った友達の試しの作品を見る場面において、プレゼンテーションソフトにそれぞれの作品を貼り付けることで(※2)、児童は短時間でクラス全員の作品を見ることができた。このことで、様々な表現方法に触れ、そのよさや面白さを考える時間を確保でき、個々の新たな発想へとつなげる姿が多く見られた。

よい点を伝え合う場面では、同時入力が可能なため、自分のペースで友達の作品のよさを入力したり、見たい作品をくり返し見たりすることができていた(※3)。

教師は、児童のコメント内容を事前に把握できるため、全体での共有の際に造形的な視点に合わせた指名がしやすくなった。

【事例におけるICT活用の場面②】



動きがなめらかな作品からコマ数の違いによる見え方の違いを共有



友達の作品を共有する場面において、新しい動きの工夫を確認したり、おさえておきたい技法を並べて提示したりすることで、造形的なよさや表現の特徴について視覚的に理解することができていた。

【活用したソフトや機能】 教科書デジタルコンテンツ コマ撮り制作ブラウザアプリ プレゼンテーションソフト 学習支援ソフト